

第28回宇宙技術および科学の国際シンポジウム沖縄大会 (International Symposium on Space Technology and Science)

主催者: 第28回宇宙技術および科学の国際シンポジウム組織委員会 社団法人 日本航空宇宙学会
共催者: 沖縄県
支援者(後援団体): 文部科学省、経済産業省、国土交通省、総務省、宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、日本経済団体連合会/宇宙開発利用推進委員会、日本政府観光局、沖縄コンベンションセンター
支援者(協賛団体): 日本ロケット協会、日本航空宇宙工業会、電子情報通信学会、日本機械学会、計測自動制御学会、日本マイクログラビティ応用学会、日本宇宙航空環境医学会、生態工学会、日本宇宙生物科学会、日本ロボット協会、宇宙科学振興会、アメリカ航空宇宙学会(AIAA)
代表者の氏名、所属、職: 荒川 義博(東京大学大学院工学研究科 教授)
開催場所: 沖縄県宜野湾市 沖縄コンベンションセンター 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1
開催期間: 平成23年6月5日(日)~6月12日(日)



当シンポジウムは、国内外の宇宙工学、宇宙科学、宇宙医学、宇宙法の分野の専門家が研究発表を通じて交流を深め、宇宙活動を一層活性化すること、また、継続的に日本で開催する国際会議であることを鑑み、学生や若手研究者・技術者への発表の場の提供、参加を支援し、次世代を担う研究者・技術者の人材育成に貢献することを開催の目的として奇数年隔年で開催しております。

第28回宇宙技術および科学の国際シンポジウム沖縄大会は、平成23年6月5日(日)~6月12日(日)の8日間、沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターにおいて開催されました。メインテーマを“Exploring Humans, Earth and Space”、サブテーマを“the quest begins in the island of peace Okinawa”とし、Humans(宇宙医学、有人プログラム等)に関するパネル、テクニカルセッションを組むとともに、Earth(地球観測)と沖縄の海洋環境、さらには震災と復興に対する宇宙技術の貢献に関するパネルを企画いたしました。またSpacelに関しては、前年に無事地球に帰還したはやぶさに関する特別講演・セッション、帰還したカプセルの展示等を行って好評を得ました。上記テーマの他に、宇宙デブリと軌道の安全性やロケット事故から打ち上げ再開に至るまで、といった興味深いテーマについてパネルディスカッションを企画し、国際的な視野で意見交換が行われました。

全体プログラムは月曜日に開会式、基調講演、ナショナルスペースプログラム及び一部一般学術セッション、火曜日から金曜日の期間でオーガナイズドセッション、17分野の学術一般セッション、学生セッション、ポスターセッション、パネルディスカッションなどが行われ、期間中活発な議論が展開されました。

今大会は学生登録者数が過去最高の250名を超え、会場全体が若々しい雰囲気となり、参加登録者及び論文投稿者数ともに過去最高を記録し、盛会裡に終了いたしました。以下、論文投稿及び参加登録詳細を記します。



第28回宇宙技術および科学の国際シンポジウム沖縄大会
(International Symposium on Space Technology and Science)

【発表講演数】

国内：594	海外：81		計：675
Oral：598	Poster：32	学生セッション：45	計：675

【参加登録数】

登録カテゴリー	一般 (regular)	リタイアード (Retired)	学生 (Student)	同伴 (Accompanying)	招待 (Invited)	合計
登録数	526	12	250	12	81	881

尚、会期中並行して国際宇宙展示会を一般公開として実施し、約1万6千名ものご来場をいただきました。

このように成功裡に会議が終了できましたことは貴財団をはじめ、関係団体、関係各位のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます、ご報告とさせていただきます。



展示場入場風景



SPSS表彰